

2 自転車を取り巻く現状と課題

本章では、国立市と東京都、それぞれにおける自転車利用者を取り巻く社会情勢の変化や、交通事故発生状況等の課題について示します。

(1) 地勢と人口

下記イメージのように、隣接する自治体や、国立市の地形などの特徴を示します。

(1) 地勢と人口

国立市は、東京都のほぼ中央部（東経 139 度 27 分 北緯 35 度 41 分）にあって、東は府中市、西は立川市、北は国分寺市、南は多摩川をはさんで日野市と接しています。北部の立川段丘面から、南に向かって青柳段丘面、多摩川沖積低地の 3 つに分けられ、それぞれに段丘面の境にはハケと呼ばれる段丘崖が存在する（立川段丘崖、青柳段丘崖）が、いずれも勾配は緩やかで、ほぼ平坦な地形で、東西 2.3km、南北 3.7km、面積は 8.15km² とコンパクトな市域となっています。

(1) の掲載イメージ

図 2-1 国立市の位置



図 2-2 国立市の地勢



出典：都市景観形成基本計画

人口推移についても第Ⅰ期計画で記した内容ですが、第Ⅰ期計画策定時点以降のデータを加えて、各年齢層に焦点を当ての変動について考察を示します。

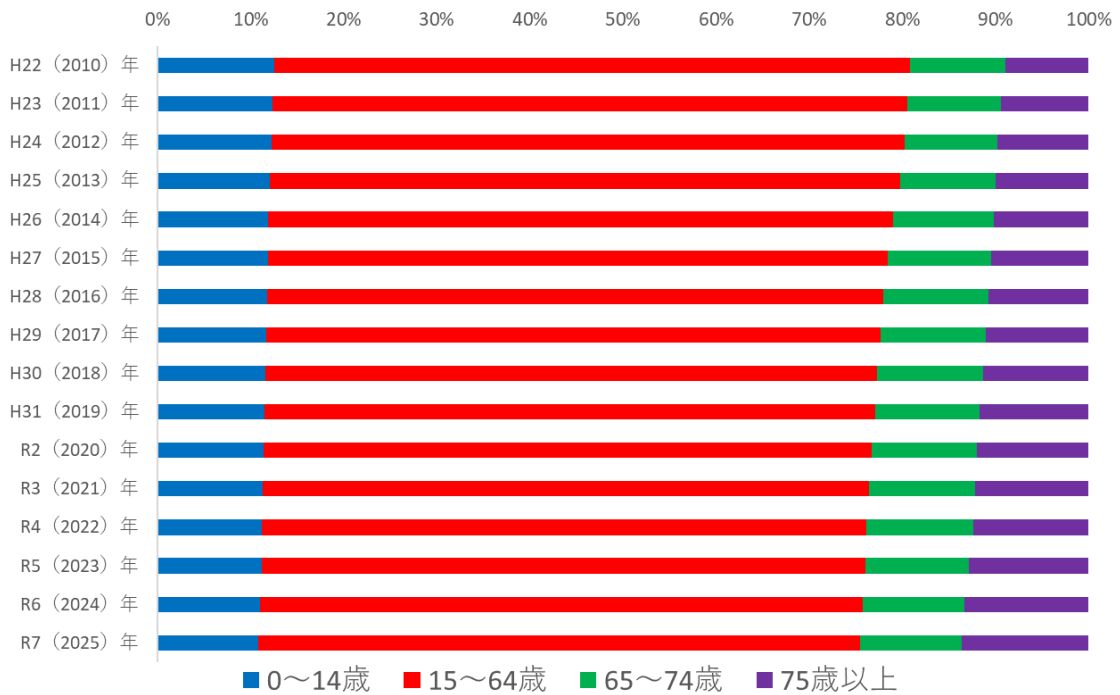
(1) の掲載イメージ

年齢別人口推移 (人)

各年1月1日

年/区分	総数	0～14歳	15～64歳	65～74歳	75歳以上
H22 (2010) 年	72,955	9,141	49,843	7,434	6,537
H23 (2011) 年	72,970	9,041	49,751	7,279	6,899
H24 (2012) 年	73,100	8,935	49,687	7,306	7,172
H25 (2013) 年	74,566	8,985	50,467	7,626	7,488
H26 (2014) 年	74,385	8,842	49,953	7,978	7,612
H27 (2015) 年	74,558	8,864	49,607	8,288	7,799
H28 (2016) 年	74,971	8,814	49,634	8,490	8,033
H29 (2017) 年	75,452	8,797	49,768	8,529	8,358
H30 (2018) 年	75,723	8,746	49,787	8,594	8,596
H31 (2019) 年	76,038	8,739	49,862	8,543	8,894
R2 (2020) 年	76,280	8,682	49,842	8,611	9,145
R3 (2021) 年	76,371	8,671	49,692	8,718	9,290
R4 (2022) 年	76,317	8,537	49,572	8,760	9,448
R5 (2023) 年	76,168	8,522	49,420	8,454	9,772
R6 (2024) 年	75,889	8,372	49,110	8,299	10,108
R7 (2025) 年	76,079	8,208	49,231	8,237	10,403

年齢別人口割合 (%)



出典：国立市住民基本台帳

(2) 自転車に関する交通事故状況

国立市内における自転車関連交通事故の件数や全体の事故に対する割合とその推移を示し、自転車事故の全容を把握できる項目とします。

自転車乗用中の交通事故当事者数（人）と割合（％）

(2) の掲載イメージ

年/区分	交通事故 当事者数 (総数)	乗用車 乗用中	貨物車 乗用中	自動二輪 乗用中	原付 自転車 乗用中	自転車 乗用中	その他 車両 乗用中	歩行中	対象外 当事者
H25 (2013) 年	512	231	69	25	17	127	2	36	5
H26 (2014) 年	442	188	85	20	20	80	0	38	11
H27 (2015) 年	442	218	86	17	8	72	1	31	9
H28 (2016) 年	456	231	66	19	12	84	1	39	4
H29 (2017) 年	480	229	65	17	16	107	0	37	9
H30 (2018) 年	494	224	86	21	12	111	0	32	8
H31 (2019) 年	488	206	77	22	9	119	0	48	7
R2 (2020) 年	390	164	71	13	9	89	1	36	7
R3 (2021) 年	338	136	45	14	9	92	0	19	23
R4 (2022) 年	376	112	54	26	14	97	1	23	49
R5 (2023) 年	388	126	47	21	5	105	2	30	52
R6 (2024) 年	356	114	45	18	7	96	0	34	42

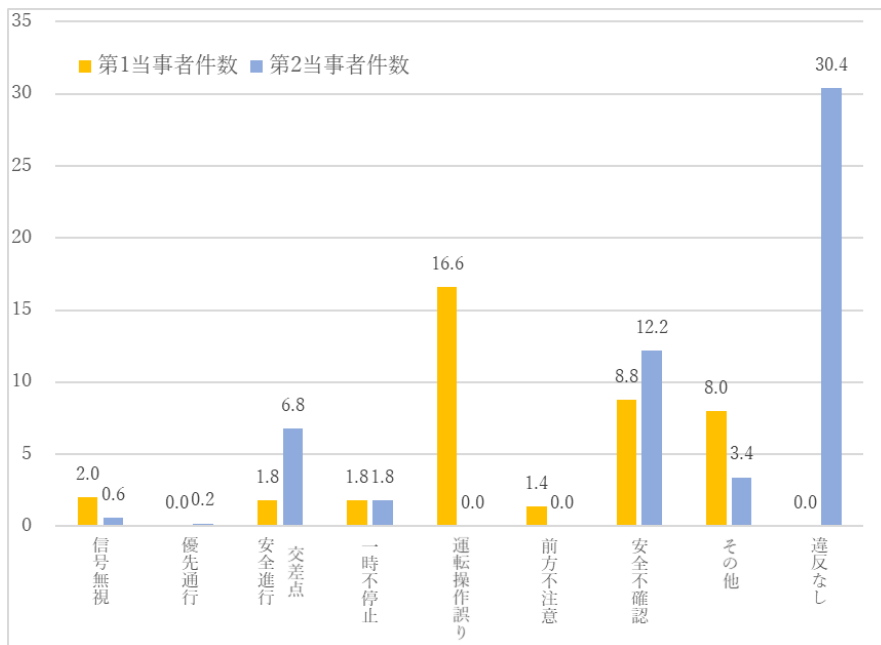
年/区分	交通事故 当事者数 (総数)	乗用車 乗用中	貨物車 乗用中	自動二輪 乗用中	原付 自転車 乗用中	自転車 乗用中	その他 車両 乗用中	歩行中	対象外 当事者
H25 (2013) 年	100%	45.1%	13.5%	4.9%	3.3%	24.8%	0.4%	7.0%	1.0%
H26 (2014) 年	100%	42.5%	19.2%	4.5%	4.5%	18.1%	0.0%	8.6%	2.5%
H27 (2015) 年	100%	49.3%	19.5%	3.8%	1.8%	16.3%	0.2%	7.0%	2.0%
H28 (2016) 年	100%	50.7%	14.5%	4.2%	2.6%	18.4%	0.2%	8.6%	0.9%
H29 (2017) 年	100%	47.7%	13.5%	3.5%	3.3%	22.3%	0.0%	7.7%	1.9%
H30 (2018) 年	100%	45.3%	17.4%	4.3%	2.4%	22.5%	0.0%	6.5%	1.6%
H31 (2019) 年	100%	42.2%	15.8%	4.5%	1.8%	24.4%	0.0%	9.8%	1.4%
R2 (2020) 年	100%	42.1%	18.2%	3.3%	2.3%	22.8%	0.3%	9.2%	1.8%
R3 (2021) 年	100%	40.2%	13.3%	4.1%	2.7%	27.2%	0.0%	5.6%	6.8%
R4 (2022) 年	100%	29.8%	14.4%	6.9%	3.7%	25.8%	0.3%	6.1%	13.0%
R5 (2023) 年	100%	32.5%	12.1%	5.4%	1.3%	27.1%	0.5%	7.7%	13.4%
R6 (2024) 年	100%	32.0%	12.6%	5.1%	2.0%	27.0%	0.0%	9.6%	11.8%

件数や他の事故との件数比較を行ったうえで、自転車事故の詳細な分析を示します。直近数年間における違反内容ごとの件数を明記し、啓発等の計画に繋げる内容とします。下記のデータに加え、自転車関連交通事故発生箇所のマップを記載します。

(2) の掲載イメージ

●自転車関連事故の違反内容としては、第1当事者においては『運転操作誤り』『安全不確認』、第2当事者においては『安全不確認』『交差点安全進行』が多くなっています。

			自転車の違反									計
			信号無視	優先通行	交差点安全進行	一時不停止	運転操作誤り	前方不注意	安全不確認	その他	違反なし	
事故件数	R2 (2020) 年	第1当事者件数	1	0	3	0	1	1	8	3	0	17
		第2当事者件数	2	0	5	1	0	0	10	2	52	72
		計	3	0	8	1	1	1	18	5	52	89
	R3 (2021) 年	第1当事者件数	1	0	2	1	8	1	9	9	0	31
		第2当事者件数	0	1	5	2	0	0	18	4	31	61
		計	1	1	7	3	8	1	27	13	31	92
	R4 (2022) 年	第1当事者件数	3	0	0	3	21	0	5	17	0	49
		第2当事者件数	0	0	10	1	0	0	4	2	31	48
		計	3	0	10	4	21	0	9	19	31	97
	R5 (2023) 年	第1当事者件数	3	0	2	2	26	2	11	5	0	51
		第2当事者件数	1	0	7	1	0	0	19	7	19	54
		計	4	0	9	3	26	2	30	12	19	105
R6 (2024) 年	第1当事者件数	2	0	2	3	27	3	11	6	0	54	
	第2当事者件数	0	0	7	4	0	0	10	2	19	42	
	計	2	0	9	7	27	3	21	8	19	96	



※令和2年～令和6年の平均値

国立市内の事故に加え、下記のように東京都内の自転車関連事故の発生状況に関する分析を示します。また、国立市内の自転車関連事故発生状況と合わせて、事故の状況や対策の必要性について、道路交通法の改定といった社会情勢の変化を絡め考察を行う内容とします。

(2) の掲載イメージ

東京都内における自転車関連事故の状況

年齢層別自転車事故発生件数（令和6年中）

	15歳以下	16～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65歳以上	計
第1当事者件数	729	575	973	797	943	1,015	409	2,257	7,698
第2当事者件数	569	435	955	1,133	1,287	1,239	414	1,350	7,382
合計	1,298	1,010	1,928	1,930	2,230	2,254	823	3,607	15,080
構成比	8.6%	6.7%	12.8%	12.8%	14.8%	14.9%	5.5%	23.9%	100.0%

資料：警視庁の統計より作成

自転車事故の発生状況（令和6年中）

●自転車事故発生状況を道路形状別に見ると、交差点における事故が最も多く、次いで単路における事故が多い。事故類型別に見ると、出会い頭が最も多くなっており、次いで車両単独が多くなっている。道路形状と事故類型の関係を分析すると、交差点における出会い頭事故や右左折時の事故、単路における車両単独事故が特に多くなっています。

	人对自転車	正面衝突	追突	出会頭	追越追抜	すれ違い時	右左折時	その他	車両単独	列車	合計	構成比
交差点	267	33	36	3,384	127	29	1,653	182	583	0	6,294	45.7%
交差点付近	107	30	48	153	95	15	67	92	400	0	1,007	7.3%
単路	768	141	188	574	455	143	245	544	3,068	0	6,126	44.5%
踏切	0	0	0	1	1	0	0	0	16	0	18	0.1%
一般交通の場所	52	5	3	22	4	6	6	24	206	0	328	2.4%
計	1,194	209	275	4,134	682	193	1,971	842	4,273	0	13,773	100.0%
構成比	8.7%	1.5%	2.0%	30.0%	5.0%	1.4%	14.3%	6.1%	31.0%	0%	100.0%	

資料：警視庁の統計より作成

(3) 市内の放置自転車の状況

下記のように市内の放置自転車の移送状況を示し、推移について考察を行います。
また、平成26年と令和7年に実施した放置自転車発生状況の調査結果を記し、第1期計画策定時点からの状況変化について示します。

市内の放置自転車の移送状況

(3) の掲載イメージ

	移送実施 日数	移送台数			
		区域内	区域外	合計	1日平均
令和2年度	118	355	57	412	3.5
令和3年度	122	421	59	480	3.9
令和4年度	120	517	73	590	4.9
令和5年度	122	502	78	580	4.8
令和6年度	120	518	69	587	4.9

谷保駅周辺における放置自転車発生状況

(※令和7年度第1回自転車対策審議会資料より調査結果の一部抜粋)

